

# 音楽科「色で音の高さを示した楽譜を見て、楽器で演奏してみよう」

名古屋市立笠寺小学校 平賀 真司

## 1 指導目標

楽譜が示す高さの音を出し、楽器で演奏することができるようにする。

## 2 児童の実態

本校特別支援学級の児童は、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を手にとると、喜んで音を出している様子が見られる。しかし、楽曲を演奏するとき、楽譜を見てどの音の高さを示したらよいか分からずに困っている様子が見られた。この実態から、楽器の音を出して楽しむだけでなく、楽譜が示す高さの音を楽器で出せるようにし、演奏することができるようにしたいと考えた。

## 3 題材において目指す児童の姿

楽譜が示す高さの音を出し、楽器で演奏することができるようにする。

## 4 学習効果を高めるための手だて

本校特別支援学級の児童は、楽器の音を出して楽しむことはできるものの、演奏するときに楽譜を見て、どの高さの音を出せばよいか分からずに困っている様子が見られる。そこで、指導の個別化として、色で音の高さを示し、鍵盤ハーモニカの鍵盤やリコーダーの指穴に色のシールを貼ったりすることで、色と楽器の音の高さを結び付け、色で音の高さを示した「色の楽譜」を見て演奏したりすることのできる手だてを考えた。「色の楽譜」は、紙・ホワイトボード・タブレットを用意し、児童がそれぞれ使いやすい物を選べるようにした（資料①）。

## 5 指導計画

### (1) 楽器で演奏してみよう（8時間完了）

| 時数  | 主な学習活動  |
|-----|---|
| 1   | 「音の高さを知ろう」<br>音の高さを知る活動。  |
| 2   | 「楽器の音の高さを知ろう」<br>色と楽器の音の高さを結びつける活動。<br>1～2年...鍵盤ハーモニカの鍵盤に、音の高さに応じた色のシールを貼る。<br>3～5年...リコーダーの指穴に、音の高さに応じた色のシールを貼る。 |
| 3   | 「示された色の音の高さを出してみよう」<br>紙・ホワイトボード・タブレットで示された色の、音の高さを出す活動。  |
| 4～6 | 「練習曲を演奏してみよう」<br>使いやすい「色の楽譜」を選び、2小節の練習曲を演奏する。   |
| 7～8 | 「楽曲を演奏してみよう」<br>使いやすい「色の楽譜」を選び、楽曲を演奏する。   |

### (2) 色の楽譜の種類（資料①）

【紙】

【ホワイトボード】

【タブレット①】

【タブ



手元で見て、最後まで見通しをもちたい児童



手元に何もない方が集中できる児童が使用



フレーズごとの情報量がちょうどよい児童が使用



出す音を一つずつ示した方が分かる児童が使用

レット②】

## 6 授業の様子

### (1) 音の高さを知ろう

「ドレミの歌」を用いて、身体の位置と高さを結び付ける学習をした。

始め、音の高さを感じることができるようするために、音の高さに合わせて手を身体の位置の高低に動かすドレミの体操を行った。ミは手を腰に、ソは手を肩になどと、教師の手本や絵で示すと、児童は、積極的に体を動かし、音の高さを表現する様子が見られた。また、ドレミの体操を行った後、音の高さを五線紙の上に音符で示すと、「音の高さが階段になっているみたい」という発言があり、身体の位置と音の高さが結び付いている様子が見られた。

### (2) 楽器の音の高さを知ろう

音の高さを色の違いで示し、楽器に色のシールを貼り、色と楽器の音の高さを結び付ける学習をした。

色はハンドベルに合わせて、ド（赤）、レ（橙）、ミ（黄）、ファ（緑）、ソ（水）ラ（青）シ（桃）とし、リコーダーの指穴や鍵盤ハーモニカの鍵盤など、各自の演奏する楽器にシールを張り付けた（資料②）。「ドは赤なんだね」「緑色がファか」などと、音の高さと色に関心が高まっていく様子が見られた。



資料② 音孔に色のシールが貼り付られたリコーダー

### (3) 示された色の音の高さを出してみよう

タブレットやホワイトボードに示された色と同じ音を出す学習をした。

「ファは緑」と声を掛けたり、ホワイトボードに示された色を指で指したりすると、手元の楽器の色を見て、正しく音を出している様子が見られた。また、出す音を一つずつ示した方が分かりやすい児童には、タブレットに単色で示すことで正しく音を出すことができた（資料③）。



資料③ タブレットで示された色を見て音を出す

### (4) 練習曲を演奏してみよう

2小節の練習曲を、示された「色の楽譜」を見ながら演奏する学習をした。

リコーダーも鍵盤ハーモニカも共通で練習できるように、「ソファソラソソソ」「ソファミファソラソ」など、リコーダーの右手の練習も含めた練習曲を作成し、「色の楽譜」を使って演奏した。色の楽譜は、紙・ホワイトボード・タブレットを用意し、各自が使いやすい楽譜を使った。どの児童も、意欲的に練習曲を演奏することができ、色と楽器の音の高さが結び付いた様子が分かった。

## (5) 楽曲を演奏してみよう

色の楽譜を見ながら「かえるの合唱」を演奏した。

色の楽譜は、紙・ホワイトボード・タブレットを用意し、各自が使いやすい楽譜を使った。教師がホワイトボードの色の楽譜を指で指すと同時に、TT指導でもう一人の教師がタブレットで単色を見ている児童の色を変えるようにした。すると、どの児童も示している音の高さを出すことができ、演奏がそろってきた。

### 7 結果と考察

音の高さを色の違いで示すことによって、どの児童も示された高さの音を楽器で出せるようになった。また、各自が使いやすい色の楽譜を選ぶことによって、それぞれ色の楽譜を見ながら楽曲を演奏できるようになった。

### 8 今後の課題

色が音の高さを表していることはどの児童も理解している。「かえるの合唱」では、全て音の長さが同じだが、今後は、「かっこう」や「ドレミのトンネル」など、2分音符を含む楽曲を演奏できるようにしていきたいと考える。